



内山美穂子 議員
(拓政会)

問 水道は住民生活やまちの成長を支える極めて重要なライフラインである。

幕別町は昭和28年に市街地の一部に水道管を布設して以来、農村部の簡易水道も順次整備してきた。しかしながら老朽化が進み、人口減少に伴って水需要の縮小や料金収入の減少、人手不足などさまざまな課題に直面している。

水道事業が健全な運営を持続できるよう、持続可能な維持管理の仕組みを整えていかなければならないことから以下について伺う。
(1) 過去3年間の漏水件数と地域への影響は。
(2) 水道施設の現況、更新計画は。
(3) 水道施設の耐震化と災害時の対応について
(4) 新しい技術の導入など今後の取組は。

町長 (1)漏水件数は、令和2年度が計7件、3年度が6件、4年度が12件で、このうち、断水による地域住民への影響は、2年度が5件40世帯、3年度が5件16世帯、4年度が7件198世帯となっている。
(2)(3)水道施設は上水道事業、簡易水道事業あわせて88施設ある。具体的な更新の年次計画はないが、平成24年に策定した「配水管路耐震化計画」を踏まえ、重要度や優先度を考慮し、効率的かつ効果的な耐震化を図っていきたい。町では、平成27年度に「幕別町水道事業危機管理対策マニュアル」を策定し、災害発生からの期間に応じて、目標水量、給水方法を定めており、必要とされる給水量を確保するとともに、迅速かつ的確な災害復旧に努めなければならないと考えている。

問 持続可能な水道施設の管理運営について
答 効率的な水道事業の運営に向けて取り組み、最新技術の調査・研究を進める

また、災害時相互応援に関する協定書を締結しており、災害時には応急給水などに関し相互に応援する体制が図られている。
(4) 現在、情報収集を行っており、引き続き、効率的で効果的な水道事業の運営に向け、AI技術等を活用した新技術の調査研究を進めていく。

再質問

問 漏水事故を最小限にするため、計画的な更新が求められる。寿命は過ぎても使える水道管と、寿命は先でも更新しなければならぬ水道管を見極めることが重要。

答 水道管の状況は掘り返さないと分からないため、更新の判断が難しい。AIの活用は革新的であり、状況をしっかりと調査し、更新化計画や耐震化計画に結びつけていくなど、大いに先端技術を活用していきたい。



みずほ通配水管布設工事（令和3年）

問 活気あるまちづくりに向け、創業支援の充実を
答 様々なニーズを把握しており支援策を検討している。空き店舗対策事業については見直しの検討を進めている。

問 起業促進スタートアップ支援の機運が全国的に高まっている。若い世代をはじめさまざまな人が新しい暮らしや働き方にチャレンジできるよう積極的な取組が重要。

(1) 創業支援のニーズをどう把握しているのか。
(2) 「空き店舗対策事業」について対象要件を拡充する考えは。

町長 (1) 空き施設利用サポートセンターにおいて、空き施設の所有者や利用希望者からの相談等を通じて、利用可能な施設に関する情報や、補助金、融資など経済的な支援についての要望など、さまざまなニーズを把握している。
(2) 空き店舗対策事業の在り方について意見交換を行ってきたほか、空き店舗の利用希望者からのニーズを把握しており、これらの意見を踏まえながら、事業の見直しについて検討を進めている。